



## 公共工事等における新技術活用システム事後評価結果通知書

国東整施企第88号  
国東整海技第17号  
令和5年3月22日

ダンレックス株式会社 御中

国土交通省  
東北地方整備局長



下記の技術について、新技術活用評価会議における評価の結果を通知します。なお、評価結果についてはNETISに掲載します。

### 記

- 1 技術名称 自動省電力モードを搭載した照明灯
- 2 NETIS登録番号 KT-200124-A
- 3 評価結果 活用効果評価結果のとおり
- 4 継続調査等の必要性について 継続調査等を必要としない。
- 5 その他 この結果に基づき、当該技術のNETIS登録番号・情報種別記号は「-VE」に変更され、掲載期限が当初にNETIS登録した翌年度の4月1日から起算して10年を経過した日まで延長されます。  
また、今後の活用効果調査及び事後評価は実施されません。

#### 異議申立について

上記について異議がある場合は、事後評価結果を通知した日から起算して10日以内に整備局長宛てに異議理由を明示した書面を提出することにより、異議申立を行うことができます。

(提出先)

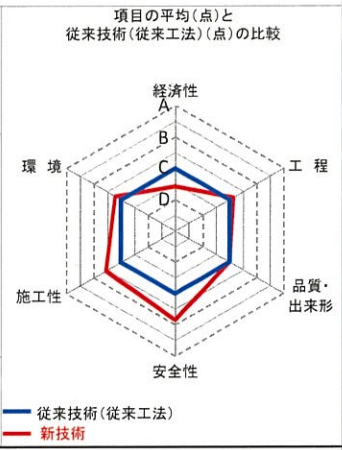
東北地方整備局  
新技術活用評価会議事務局

# 活用効果評価結果

令和4年度

東北地方整備局 / 新技術活用評価会議

NETIS 情報	省人化、安全性の向上							
	開発目標		区分		製品		有用な技術の位置づけ	—
	新技術登録番号	KT-200124- VE	分類	仮設工 - 仮設材設置撤去工				
	新技術名	自動省電力モードを搭載した照明灯 (電池残量を自動で判別し省電力発光する照明灯)						
	比較する従来技術 (従来工法)	ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯						
	新技術の概要及び特徴	本技術は、工事規制区域で使用する照明灯に自動省電力モードを搭載した技術で、従来はソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯で対応していた。本技術の活用により省電力モードに自動で切り替わることで、不点灯の防止に繋がり、安全性と施工性の向上が図れます。						
活用効果評価	所見	<p>活用効果調査結果により従来技術と同程度である。</p> <p><b>【施工時評価】</b></p> <p>経 済 性: 製品単価が高価であるため、経済性が劣る。</p> <p>安 全 性: 電池残量が不足した際に省電力モードになり、不点灯の防止に繋がるため、安全性が向上する。</p> <p>施 工 性: 省電力モードに切り替わることで、電池残量が把握でき、電池切れを防止できるため、施工性が向上する。</p>						
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	活用効果調査の結果、活用現場の違いによる大きな差異は認められないため、情報種類記号を「-VE」とし、今後の活用調査、事後評価は実施しないものとする。						
	留意事項							
	活用効果調査表における改良点及び要望							
活用効果調査結果	対象工事	1	泊地浚渫工事	「北海道開発局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R4	
		2	河道掘削工事	「東北地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R4	
		3	舗装修繕工事	「北陸地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R4	
		4	高架橋下部工事	「中部地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R4	
		5	河道維持工事	「北陸地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R3	
		6	築堤工事	「九州地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R4	
		7	河床掘削工事	「九州地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R3	
		8	維持修繕工事	「九州地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R4	
		9	災害復旧工事	「九州地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R4	
		10	坂路設置工事	「九州地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R4	
		11	軟弱地盤工事	「中国地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R4	
		12	交差点改良工事	「九州地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R4	
		13	河道掘削工事	「北陸地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R3	
		14	橋梁下部工事	「中部地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R4	
		15	道路改良工事	「九州地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R4	
		16	堤防整備工事	「九州地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R3	
		17	整備工事	「中部地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R3	
		18	堆砂撤去工事	「近畿地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R3	
		19	構内整備工事	「近畿地方整備局」	(従来技術:ソーラー式(自動省電力モード無し)の照明灯)	施工者選定型(契約後提案)	R3	



# 活用効果評価結果

令和4年度

東北地方整備局 / 新技術活用評価会議

項目		ケース番号 および年度																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
		R4	R4	R4	R4	R3	R4	R3	R4	R4	R4	R4	R3	R4	R4	R3	R3	R3	R3	R3	
施工時評価	経済性	C	D	C	D	C	C	D	C	D	D	C	D	D	D	D	C	B	D	D	
	工程	A	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	C	C	C	
	品質・出来形	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	
	安全性	B	A	B	B	B	B	B	A	B	B	B	C	C	B	B	B	B	C	B	
	施工性	A	C	B	B	C	C	B	B	B	B	C	C	C	C	B	B	B	C	B	
	環境	A	C	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	C	C	B	C	C	C	
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
総合評価点		B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	
項目																			項目の 平均(点)	従来技術 (従来工法) (点)	
施工時評価	経済性																			D	C
	工程																			C	C
	品質・出来形																			C	C
	安全性																			B	C
	施工性																			B	C
	環境																			C	C
	その他																			-	-
総合評価点																				C	C
今後、当該技術を活用出来る 工事に活用したいか		今後も是非活用したい			活用を検討したい			場合によっては活用 することもある			技術の改良を強く望む			優位性における判定							
		11%			45%			36%			8%			A		従来技術より大幅に優れる					
														B		従来技術より優れる					
														C		従来技術と同等					
														D		従来技術より劣る					
追跡調査の必要性		無し																			
追跡調査		-																			